

平成16年6月22日(火)

本日の授業 —前文脈としての大人社会の力ー(2)

溝上 慎一 (高等教育研究開発推進センター助教授)

1. はじめに

- ・Maslow の要求階層 (前回の補足) :

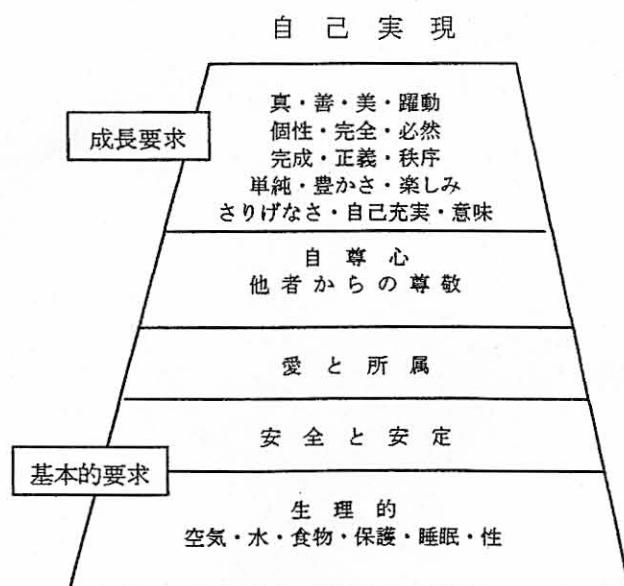


図 マズローの要求の階層構造
(注) Goble (1970), p.50 より抜粋・翻訳

- ・五月病

薬学部1回生 女性

あと「大学生論」の中で五月病は本当は10月くらいになると書いてありましたが本当ですか?

2. 前回の感想から：

(1) 完結したシステム？

理学部1回生 男性

大学生活はひとつのシステムであるというが、完結したシステムでないように思う。睡眠な恋愛なりの他の factor をければ大学生活というシステム全体のポテンシャルを上げることも可能であるからである。ポテンシャルが一定でなければ完結しているとは言えない。そう考えると、全てがまとまってひとつの完結したシステムにならないか？これは自明ではないか？大学生活をシステムと称する考え方方がうまく理解できない。

(2) 大学って勉強だけするところ？

理学部1回生 男性

大学は学問をする所だと思っていたが、溝上先生の話を聞いていて、授業はサボるべきものなんだろうかと思った。自転車がもっと減ってほしいと言っているように聞こえた。

工学部1回生 男性

もし学問を深くするように、あとほかは放棄するのが良いと思いますか。やっぱり学生さんは勉強だけですか。いろんな傾向があると思います。それだから自分が好きなことをやるのが一番いいじゃないですか。

農学部1回生 女性

自分は今19コマの授業のほとんどすべてに出席している。授業にはとりあえず出席しなければならないという思いが心の中にあるからだと思う。しかし、授業を理解できているわけでもないし、復習もきちんとできているわけではない。復習しなければという思いはあるものの、思うように進まず、常に追いつめられているような気がするし、何か他の事をしている時でも、気になって、仕方がないと思うことがある。大学生になったら勉強だけでなく、いろいろなことをしたいと思っていたが、忙しすぎて思うようにできないというのが現状だと思う。

法学部1回生 女性

私は、大学の授業を取るとき、面白いと思うものを何よりも優先して取りました。最初の数回の授業は本当に楽しかったです、どれも。でも、最近はつまらないということはないのですが、楽しくない。一つには、自分がつかれているからだと思います。毎日のように、サークル仲間、クラスのメンバー、その他の友達誰かと遊んでいます。それは本当に楽しいです。友達の輪が広がるし、今まで自分が見てきていたかったものを見られるようになってきた気がします。でも一方で、登録した授業全てにいまのところ一度の欠席もなく出続けています。授業は寝てしまったり、ずっと友達と話していたりもするのですが。自分は一体何をやりたいのか、それがちょっとわからなくなっています。

(3) 大学での勉強の仕方： <資料1>

農学部1回生 男性

今日の講義は非常に「大学らしい」と思いました。他の講義でも似たような形式のものはあるのですが、教授がきちんと学生の意見を吸い上げて、そこから授業を構築していく、教授と学生の共同作業的な所に「大学らしさ」を感じます。(高校では、先生から学生への一方通行的なものが多かったので。それでも面白いものは多々ありましたが)ただ、その分、学生もきちんと自分の意見を主張しなければならず、深みが要求されていると思います。

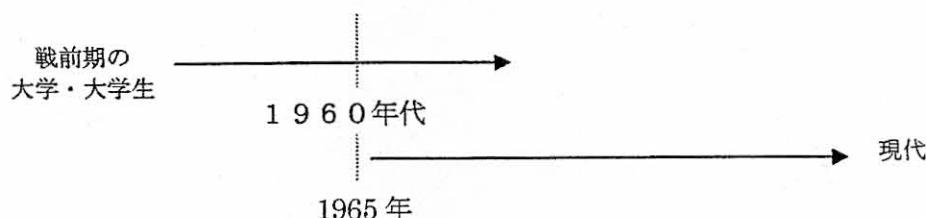
農・地域環境工1回生 男性

私人、授業出席コマ数は10未満であり、似たような者は群れをなすので、一概には言えないが、もし単位を出席しないでもくれるというならばほとんどの学生とまでは言わないまでも半数近くの学生が出席しないと思う。特に第二言語では授業の質は低い。このような出席しない者は必ず勉強をしない者であるとは言えなく自分なりの方法で学んでいる。私はこれでいいと思う。

経済学部2回生 男性

前々から気になっていたのだが、大学を出て就職を人と、大学を出ないで就職した人とでは、能力にどれ程の差があるのか知りたい。今、「経営学」「戦略論」ということを勉強しているのだが、これが社会に出て役に立つかはなはだ疑問です。むしろ、このような理論は、実社会があつてこそその理論という意味では無用なのでは？と思ったりもします。

(4) 「1960年代」という時代—大人社会（前文脈）の力を知る—



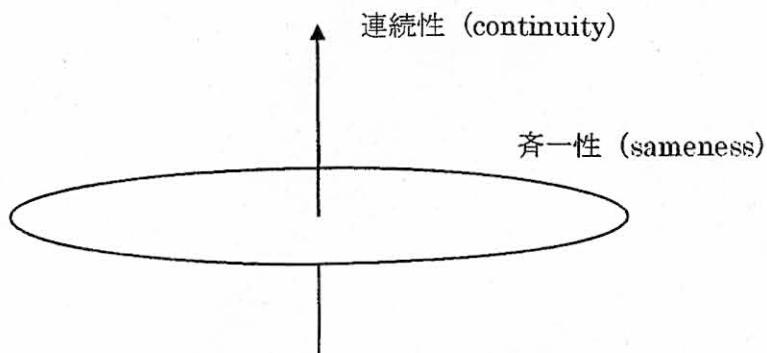
不明 男性

パパゴ族の話について、なぜあの一連の出来事がアイデンティティの経験になるのですか？

理学部2回生 男性

パパゴ族の話は興味深かった。3才の子が大人の階級を理解できていたのかは多少疑問だったが、確かに特定の社会（の長）から認められることがアイデンティティにつながることは納得がいった。では今なぜ自らのアイデンティティが薄い人が多いのかといえば、いかなる社会からもみとめられることがなかったからなのだろうか？アイデンティティを“与え”だけの力を大人社会の側も失ってきているからだろうか？それともその力はあるのだけれど、現代では“社会”的種目が多くて（パパゴ族ではそんなに多くないと思う）そもそもその力のある社会に出会う確率が下がっているからなのだろうか？

・アイデンティティの2軸



・アウトサイド・インの生き方とインサイド・アウトの生き方

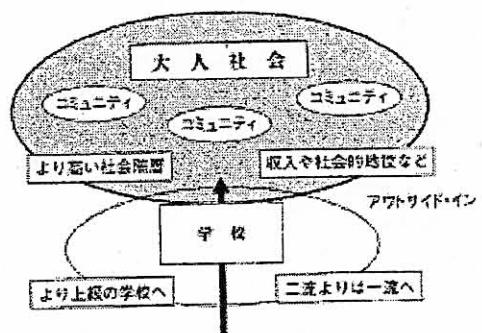


図1-9 1960年代青年の生き方ダイナミックス（アウトサイド・イン）
(左)「学校」が「大人社会」の内に片足を踏み入れているのは、「より上級の学校へ」「二流よりは一流へ」といった条件を満たす学校に入ることから、かなりの部分より高い社会階層の「大人社会」に容入できる可能性を決定しているからである。

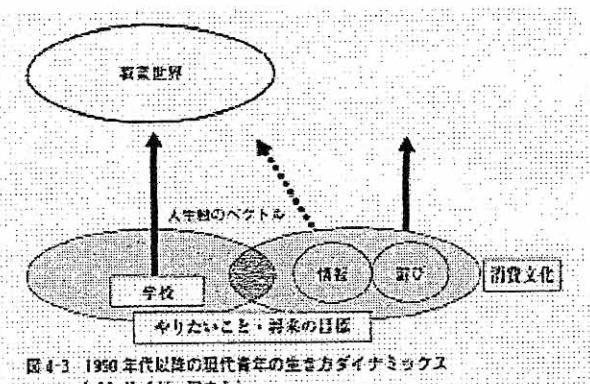


図4-3 1990年代以降の現代青年の生き方ダイナミックス
(インサイド・アウト)

・大プレート・小プレート：

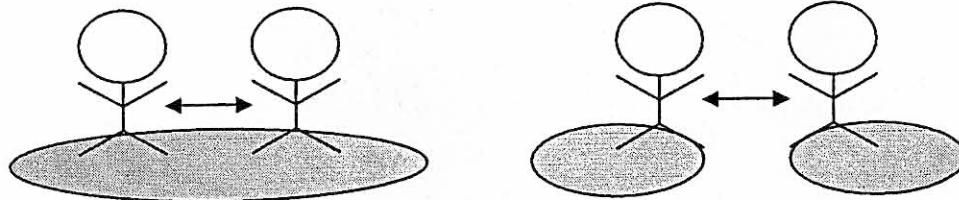


図 大プレート（左）・小プレート（右）における人間関係

4. 参考文献

- Goble, F. G. (1970). *The third force: The psychology of Abraham Maslow*. New York: Grossman.
(小口忠彦 (監訳). マズローの心理学—第三勢力—. 産能大学出版部, 1972).
河本英夫 1995 オートポイエーシスー第三世代システムー. 青土社.

真説異説

政策研究大学院大学学長 吉村 融氏



1930年生まれ。55年東大助手、72年埼玉大教授、73年行動科学情報解析センター所長などを経て、94年政策研究大学院大学創設準備室長、97年10月から現職。

経済法制度の見直しが常に後手に回る日本。権威に対する対応ができないのは經濟を肌で感じた政策スタッフの不足が背景にある。政策研究大学院大学(GRIPS)の吉村融学長は「正しい知識と教養、決断力を身につけた人材育成が急務」と力説する。

「教育制度だけが原因ではありませんが、確かに指導者への教育が充実していません。専門的な知識と見識を持ち、高い志をもつて長期的視野から考へるのが眞のエリート教育がなくなっています。特に政策にかかわるのは、國や文化を超えた教養を備えていたければなりません。歴史をさかのぼって知見を広げるよう、にじみ出る教養が求められます。ほんの五年、十年の流れを見ただけでは薄っばらぬ発想になつて駄目です」

日米の歴史の差

—GRIPS(東京)の役割もそこにある。

「一九六八年、米国の大企業を徹底的に調べました。ハーバード大のケネディスクール、プリンストン大のウッドロー・ジョンソンスクール、カリフォルニア大バークレー

の財産開拓の人材養成の政府方針に強い輩土を増加させる方針で、特に政策にかかるものは、國や文化を超えた教養を備えていたいからこそ、専門的な知識と見識を持ち、高い志をもつて長期的視野から考へるのが眞のエリート教育がなくなっています。特に政策にかかわるのは、國や文化を超えた教養を備えていたければなりません。歴史をさかのぼって知見を広げるよう、にじみ出る教養が求められます。ほんの五年、十年の流れを見ただけでは薄っばらぬ発想になつて駄目です」

—GRIPS(東京)

の役割もそこにある。

「一九六八年、米国の大企業を徹底的に調べました。ハーバード大のケネ

ディスクール、プリンス

トント大のウッドロー・ウ

ィルソンスクール、カリ

フォルニア大バークレー

指導者育成 高等教育に問題あり

的財産開拓の人材養成の政府方針に強い輩土を増加させる方針で、特に政策にかかるものは、國や文化を超えた教養を備えていたいからこそ、専門的な知識と見識を持ち、高い志をもつて長期的視野から考へるのが眞のエリート教育がなくなっています。特に政策にかかわるのは、國や文化を超えた教養を備えていたければなりません。歴史をさかのぼって知見を広げるよう、にじみ出る教養が求められます。ほんの五年、十年の流れを見ただけでは薄っばらぬ発想になつて駄目です」

—GRIPS(東京)の骨子

最高の意思決定機関として「役員会」を新設、長の権限を強化して意思決定の迅速化を図る議論面を審議する「経営協議会」を設け、過半数は学外委員を招く。研究面は「教育研究評議会」が担当。議会・評議会とも議長は学長。議長任期は2年以上6年以下。科相が示す期間6年の「中期目標」に沿って中間計画を策定。記者評議会が計画達成などを評価、国が交付する運営費交付金に反映させる

た。埼玉大では政策研究科をつくり、九七年によつやくGRIPSが主導です。それでは、「知財人材の育成には創設いたしました」。「日本が遅れています。これは法律の解釈技術やりはい、そこには日本の歴史的な違いもあります。米国では連邦政府に法技術を身につける。そこまでは法律の体系を一ガルマインド(法的思考)を学び、役所では立てる技術経営大学院(MOT)。経営的な観点からいえば、生命工学、ナノテクノロジー(超微細技術)を提案し、資金を競い合

成が狙いです」

—GRIPS(東京)

の役割もそこにある。

「一九六八年、米国の大企

業を徹底的に調べました。ハーバード大のケネ

ディスクール、プリンス

トント大のウッドロー・ウ

ィルソンスクール、カリ

フォルニア大バークレー

教養と決断力が必須

ムがありました。日本でも幅広い視野を持つ政策スタッフの養成機関を設ける必要性を痛感しま

—法律中心の弊害

で作られてきました」

—その官僚たちに

から、向こう五年間の知

て国立大学法人化です」

—GRIPSは来春

NS(COE)構想、そし

て法人化形態に難

いことがあります。

—無知と無意識から誤

な機敏に立法ができない

ことがあります。法律、経

済などの幅広い知識、そ

のいわゆる教育改革の

期にあります。法律、経

済などが政府に入ってきたため、大学と行政が、また、第二次大戦後

人材が政府に入ってきたため、大学と行政が、また、第二次大戦後

人材が政府に入ってきたため、大学と行政が、また、第二次大戦後